くらし部会 「障がいのある方の災害時における避難の課題と対策についてのアンケート」まとめ　　2020.11

足立区の障がいのある方の災害時における避難について、短期的な課題と対策を、各事業所や団体等の視点で記載

住居・建物に関する課題停電や断水含む	震災等	・建物自体に心配はないが、建物が倒壊するほどの震災が来れば打つ手なし（でてこいホーム：以下でてこい） ・鉄筋コンクリートの丈夫な建物です（希望の苑） ・避難所から仮設住宅へ移る流れに加え自宅の再建長期的な生活を可能とした仮設住宅の整備（あいのわ支援センター：以下あいのわ） ・物が散乱して居場所がない（さくら会） ・ライフラインの確保（葦の会） ・停電によりEVが使用できず避難できない（父母の会）同水害 ・呼吸器等の電源の確保(ハートぽっぽ) ・発電または備蓄装置が低層階に設置されている（谷在家福祉園：以下谷在家）同水害 ・ひとりでいる時の不安、パニック、障がい特性による行動(親の会) ・建物が壊れた場合の避難先(あかしあの杜きずな：以下きずな)	考えうる対策	・水や簡易トイレ、カセットコンロなどの調理器具など用意できるものは用意している（でてこい） ・空き家の活用など、障がい者が一時的に居住できる住まいを確保（あいのわ） ・自家用発電機の調達（葦の会） ・蓄電器や予備バッテリーの準備(ハートぽっぽ) ・浸水水位を想定し高層階に設置するなど(谷在家)同水害 ・日頃から様々な想定をして訓練(経験)する。本人が落ち着け安定できるものを用意しておく(親の会) ・一時的に公園等への避難(きずな)
	水害等	・荒川の真横に位置するGHがあるため、早め早めの行動を考えている（でてこい） ・電気設備は屋上にありますが、備蓄倉庫が１階です（希望の苑） ・垂直避難ができない住居や障がい者でも避難できるような避難所（あいのわ） ・狭い階段しかない。車イスごと上階へ登るのは困難。マンパワー不足（さくら会） ・建物内に浸水してきた場合の避難経路の確保(ハートぽっぽ) ・本人の生活パターンにない状況を受け入れられない(親の会) ・停電時の電源の確保(きずな)	考えうる対策	・早めの情報収集（でてこい） ・天気予報を見ながら上層階へ上げる（希望の苑） ・ハザードマップの最新情報や居住地がどの様な状況について水害は事前に備えることが可能の為、どの段階で避難をするかを取り決めておくことが重要です（あいのわ） ・地域のレスキュー隊との連携（さくら会） ・日頃の避難訓練と事前避難の早めの確認(ハートぽっぽ) ・停電、断水など考えられることを想定して準備しておく。訓練として経験しておく(親の会) ・発電機等の活用(きずな)

福祉サービスや地域資源に関する課題	震災等	・まずは自分たちで生き延びられるように（でてこい）同水害 ・入所者を支える職員の出勤確保（希望の苑）同水害 ・包括的なケアを必要とする方達にワンストップで相談やサービスを提供できる拠点がない。また、生活再建支援にあたる福祉人材の確保（あいのわ） ・ガレキの中を避難することが難しい人に対するマンパワーが必要（さくら会） ・地域の避難所のキャパシティが少ない（葦の会） ・ヘルパー等の人材は利用できないため車いすへの移乗など高齢の親は特に厳しい。障がい児者だけでなく親自身も支援が必要な家庭がある。（父母の会）同水害 ・在宅障がい者の安否確認（ハートぽっぽ）同水害 ・福祉サービスが利用できないことでご家庭の負担が大きい。本人の生活リズムの乱れ(親の会) ・公助の強化(谷在家) 同水害 ・事業継続(きずな) 同水害	考えうる対策	・できるだけの物資の用意をお願いしたい。それと非常時に備えた演習を（でてこい）同水害 ・近隣職員の参集を計画しています（希望の苑） ・日頃からの関係機関とのネットワークの構築。他業種や多くのボランティアが福祉分野で動ける仕組みづくり、総合相談体制の確立（あいのわ） ・災害支援ボランティアや地域のレスキュー隊との連携（さくら会） ・福祉事務所、保健所職員及び地域ボランティアグループとの連携(ハートぽっぽ) ・安全を確保したうえで早期の開所、サービス利用、居場所作りだけでもよい、親の会としてできることを考える。サービス利用できなくなった時どうするか？何が必要か可能な限り手段を作っておく(親の会) 同水害 ・一時預かりや自宅ヘルパー派遣や、専門的かつ優先的に受診ができる簡易医療施設の設置など(谷在家) 同水害 ・入所利用者の生活の維持(きずな) 同水害
	水害等		〃対策	
避難所に	震災等	・実際に行ってみなければわからない（でてこい）同水害 ・入所者の 24 時間を支えるので精いっぱいになることが予想されます（希望の苑）同水害 ・避難所に移動する時間を要する。食料や薬の確保。障がい者の避	考えうる	・大規模な合同訓練をしてみてはどうか（でてこい）同水害 ・災害時要援護者名簿の活用と見直しや地域住民の理解。

関する課題		難所にいる健常児者の理解（あいのわ） ・施設での長期避難は困難なため、近くの避難所に行くが、そのタイミングが難しい（さくら会） ・一般の避難所で多くの方と過ごすのは難しい（葦の会） ・他人の声など敏感に反応する。一般の方とは違う場所へ。オムツ交換場所、洋式トイレ(父母の会) ・段差やトイレ、周囲からの排除での孤立感解消(ハートぽっぽ) ・障がいのある方への対応、理解、設備。ひとりの場合の身元確認(言えない書けない)(親の会) ・二次避難所の収容人数の現実性。地域住民などの受け入れ(谷在家)	対策	福祉専門避難所の構築（あいのわ） ・避難所が開設されたことを知らせてもらう（さくら会） ・自施設で過ごせるよう食料その他備蓄している（葦の会） ・福祉避難所(洋式トイレ）（父母の会） ・点字や手話の知識を持つ、職員やボランティア育成(ハートぽっぽ) 同水害 ・障がいに対応できる人、ヘルプマークの活用、会員同士協力。身元がわかるものを持たせておく(服薬についても)。（親の会） ・施設が普段づかいにある中での想定の見直し。要介護者などの事前登録など(谷在家)
	水害等	・避難所にEVがなければ行くことが困難（さくら会） ・2F以上へ避難するにはエレベーター等が必要(人力)。（父母の会） ・肢体不自由の方々が車椅子で避難した場合、上層階への避難手段、担架 or 人力？（ハートぽっぽ） ・避難所を利用される人数の把握。避難所へ行くまでの手段(親の会) ・洪水が起きた際はさらに狭くなること(谷在家)	考える対策	・受付の簡素化とスムーズな部屋割り。地域のマンパワーの必要性(親の会) ・屋上整備など(谷在家)
情報に関する課題	震災等	・非常時にどれだけ情報が取れるか心配（でてこい）同水害 ・通信機器が使用不能の際に代替え手段（希望の苑）同水害 ・有事の際個人情報保護の壁が厚く、災害時要援護者名簿の開示等が拒まれる恐れがあり、被害が大きくなることが想定できる（あいのわ） ・家族と連絡が取れないことでパニックを起こす心配（さくら会） ・高齢の家族はインターネットを使われない。メール連絡もできない	考える対策	・LINEなどでスタッフ間、家族間での情報が共有できるようなネットワークは用意している（でてこい）同水害 ・職員用安否確認、緊急連絡システム「すぐメール」を活用しています（希望の苑） ・危機的な状況で救助が優先されるべきもので、行政が先頭に立って、実行性の持つ行動の検討（あいのわ） ・災害伝言ダイヤルの説明を行っているが…（葦の会）

		（葦の会） ・ラジオ・スマホなどの電源(電池含む)の確保(父母の会) ・災害時及び復興時における生活情報の伝達(ハートぽっぽ) ・正確な情報を知ること(親の会) ・街頭放送に頼るのみ(谷在家) 同水害 ・無線機・ラジオ等による情報収集(きずな) 同水害		・バッテリーや電池など事前に購入、入れかえ。A メール等、平時から登録しておく(父母の会) ・TV 画面を使っての文字放送やラジオ等での音声案内、相談窓口の設置(ハートぽっぽ) ・情報や連絡がとれるよう日頃から準備しておく。充電器・電池・ラジオなど。会員の安否確認の手段を考える(親の会) ・警報信号機等(点灯・点滅)の設置/防災無線設置(谷在家) 同水害 ・無線機・ラジオ等による情報収集(きずな) 同水害
	水害等	・通信機器が使用不能の際に代替え手段（希望の苑） ・地域の細かな情報が必要。帰宅させるか否か判断の難しさ（さくら会） ・スマホ等水没しない様な対応。電源の確保。正しい情報(父母の会) ・ハザードマップ活用の周知と障害を持つ方への手引きを広める(ハートぽっぽ) ・高齢の方への適切な情報提供(親の会)	考えうる対策	・情報を音と目視で分かりやすくする工夫（さくら会） ・平時から近隣のハザードマップを確認しておく。A メール等の登録(父母の会) ・障害を持つ方やそのご家族に地域ハザードマップの活用の手引きを広めていく(ハートぽっぽ) ・各家庭でマニュアルを作り、情報の受け方や適切な判断ができるようにする(親の会)
備蓄・食料・日用品等に	震災等	・ある程度の用意はしているが、それで足りるのかどうかは心配（でてこい）同水害 ・入所者・職員分 5 日間は備蓄があります（希望の苑）同水害 ・有事の際の食料等のライフラインの安定供給の確保（あいのわ） ・食料・日用品とも不足が心配。備蓄にも限度がある（さくら会） ・外倉庫に保管（葦の会） ・普通食を食べられない障がい児者は食料を備えておく(父母の会) ・在宅避難所への救援物資供給方法、食事の形状やアレルギー、と	考えうる対策	・予想外にも対応できるような準備（でてこい）同水害 ・ガス水道が止まった場合の衛生管理・調理が課題（希望の苑） ・配送まで引き受けてくれる他社との協力体制や支援体制の構築（あいのわ） ・見直し、確認・追加を行っている（葦の会） ・日頃よりどのような流れで物資を供給できるか？関係施設

関する課題		ろみ剤など（ハートぽっぽ） ・既存ご利用者に 5 日分のみ。地域住民の方への配給量は備えていない(谷在家) 同水害 ・3 日分の蓄えはあるがそれ以上延びた場合の対応(きずな) 同水害		や団体と交流を深めていく(ハートぽっぽ) ・持ち出しするもの、備蓄としてとりあえず置いておくものを区別しておく。服薬の管理(親の会) ・指定避難所となる施設については、地域住民や一般からの帰宅困難者などにも応じられるよう少量でも確保しておく(谷在家) 同水害 ・区との連携・備蓄品の確保(きずな) 同水害
	水害等	・備蓄の管理や保管場所の課題（あいのわ） ・非常袋等を上階に運ぶ必要がある。日用品不足を心配（さくら会） ・備蓄品が外の倉庫に保管（葦の会） ・雨天時、持ち出せる荷物が限られる(父母の会) ・災害時における常備薬の確保(ハートぽっぽ)	考えうる対策	・区内ではハザードマップから保管場所が限定される為、行政が保管場所と賞味期限等の管理を一括で担う（あいのわ） ・上の階にも備蓄品を置いておく（さくら会） ・備蓄品を2、3階に移動する（葦の会） ・指定の避難先で薬の常備をする。行政と医療連携の充実(ハートぽっぽ) ・正確な情報を知り、備蓄等の移動、近所声を掛け合い、協力態勢作り(親の会)
その他		・障がいの無理解からくる差別など（さくら会） ・各家庭の防災避難に対する備え防災計画を立てているか（葦の会） ・医療的ケアが必要な方への支援、電源の確保、命にかかわる アルコール消毒ほか(父母の会)	〃対策	・障がいを理解してくれる人を増やす（さくら会） ・施設として把握すべきか（葦の会） ・優先に購入できるシステム作り(父母の会)